

自己評価による自己点検・学校関係者アンケートの結果を受けて

(世田谷区立八幡中学校 自己評価報告書)

平成 23 年 3 月 14 日

I 分掌の課題と解決に向けての取組

1 教務

(1) 学習指導について

ア 生徒の日常の授業の理解度と教職員の授業の工夫・改善への取り組みについては、肯定的評価がやや上昇した。基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得について、今後も継続していく。

イ 通知表の評価は納得できるについては、昨年度より肯定的評価がやや下がっていることから、今後も資料に基づき適正に行っていく。

評価を適正に行っているにもかかわらず、納得できない生徒がいることは理解している。丁寧な説明を心がけ責任を果たしていく。

(2) 学校行事について教員は100%意欲を大事にした指導をしている。生徒も意欲的に取り組んでいる。制約が多い中では限界があるかもしれないが、今後も意欲を伸ばす努力を重ねていく。

2 生活指導

(1) 「社会のルールを守ることに子どもたちに指導している」点に関しては肯定的評価がここ2年向上している。また「子どもたちについて問題となる行動が少ない」点でも向上している。これは教員間で共通した指導ができてきたことが大きいと思われる。しかし実際には、生徒の行動がすべて良いわけではなく、注意すべき点はある。生徒は「先生に指導されたことは納得ができる」点では全体的には評価は悪くないが、細かく見ていくと、学年が上がるほど肯定的評価が下がっている。

教員間による指導の差が出ないことと同時に、丁寧な指導が必要である。今以上の協力体制が必要である。

(2) 学校の安全性については「安全確保の情報」「本校施設の安全」について、今年度評価を下げている。どのような安全確保の情報が必要なのかを探る必要と本校施設は秀前できるところは修繕し、安全性を確保できるように区にも要請していく必要がある。

3 進路指導

(1) 進路に関する情報の提供を「進路だより」「進路だより」等で積極的に行った。肯定的評価が向上し、定着してきている。

(2) 来年度に向けて、①「進路」＝「キャリア」の認識をさらに徹底していく、②本年度と同様の取組を継続して行うことを基本とする、③内容が良くないのではなく、伝え方を工夫する、④全体にむけて伝えながら、より個を意識して伝えていく。そのために、配布物の提示の仕方を工夫する、学校だより・学年だよりを活用して授業などの取り組みを紹介する、二者面談や三者面談で進学の話題を取り上げるなど

を実施していく。

4 保健・給食

- (1) 健康管理、健康観察についての教員の肯定的評価は高い。今後も引き続き行っていく。
- (2) 食育に関する評価は、教員、保護者とも高くない。給食での指導の難しさもあるが、教科の学習などと合わせ、全校的な指導の中で工夫・改善していく。

Ⅱ 学年の課題と解決に向けての取組

1 1年

(1) 学習指導について

ア 授業をとおして学力が付いているかとの問いに対し、他学年よりやや低い結果が出ている。保護者の期待に応えられるように、努力を続ける。

イ 黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい指導をしているとの問いに対し、教員は意識が高い。生徒も肯定的な評価が高い。板書を写すのに時間がかかる生徒もいる。板書事項を生徒が理解しているかを確認するなど工夫を重ねる。

(2) 生活指導について

全般的に肯定的な評価が高い。引き続き生徒が納得のできる丁寧な指導を行っていく。

(3) 学校行事について

生徒の肯定的評価も、保護者の評価も非常に高い。良好であると考えている。今後も期待に応じていく。

(4) 進路指導について

先生と相談する機会が十分あるという問いに対しての肯定的な評価がやや低い。生徒一人一人と具体的な進路について話し合う場面が少ない。放課後、生徒と話をする物理的な時間の確保について工夫していく。

(5) 教職員について

先生は誰に対しても公平であるという問いに対し、29%がCD評価をしている。生徒が何を不公平と感じているのか把握する必要がある。

(6) 広報活動・情報提供について

各種たよりやHPはかなり充実してきたと思うが、HPについてE評価が24%であった。更新の工夫をしていく。

(7) 学校全般について

ア 学校が楽しいという問いに12%がCD評価であるが、100%を目指す方向で指導を続ける。

イ 進路便りで進路について考えることができるという問いに対し、48%がCD評価である。進路＝進学という意識がまだ高い生徒がいる。

2 2年

- (1) 「わかりやすい授業をしているか」については、肯定的な評価が保護者でやや低くなっている。3学期になって学習意欲が高まってきているように感じる。改善・工夫をさらにすすめていくとともに、補習・質問教室を実施していく。
- (2) 楽しみにしている行事についての肯定的な評価がとて高い。昨年度よりも自主的に考えて行動できるようになった。さらに生徒が達成感を感じ、活躍できるように工夫していく。
- (3) 「先生はよく話を聞いてくれる」について、否定的な評価が25%である。教育相談があまりできなかった。計画的に面談ができるようにしていく。

3 3年 昨年度で肯定的評価の特に低い項目について検討し、今年度の指導を実践した。その結果すべての項目で評価が向上した。

- (1) 授業の開始・終了時間について
 - ・休み時間の教員の巡回、指導
 - ・学級委員、生活委員の呼びかけ
 - ・クラスでの話し合い
 - ・3年としての自覚の芽生え
 の成果と思われる。
- (2) 進路に関する情報提供
 - ・随時の二者面談、三者面談の機会を多くもった
 - ・進路だより等で情報を密に伝えた
 の成果と思われる。
- (3) 先生はだれに対しても公平か
 - ・道徳や特別活動を通し、個人差と公平さについて学びの機会をもった
 - ・教員各自が公平な態度で生徒に接するよう努めた
 成果と思われる。

4 C組

- (1) 地域との連携について、C組では学習ボランティア等地域の援助と協力を得ることで、活動の幅が広がり、充実した学習活動を今年度も実践することができた。大変ありがたい。今後も地域との協力関係を構築していきたい。
- (2) 特別支援教育の校内体制について、校内の運営委員会と連動し、学年を超えて話し合い、対応できる体制が取られている。週1回担任会をもち、情報を共有し指導の連携をすすめていく。各教員への周知を徹底するため、今後も学年会や職員会議などで情報の共有化を図る。
- (3) 教育機関との連携では、必要に応じて関連機関との連携を図っている。特別支援学級からも必要な情報を提供し、連携がスムーズに行えるよう取り組んでいく。

Ⅲ 学校の課題と解決に向けての取組

1 地域とともに子どもを育てる教育

(1) 肯定的評価は昨年並みに高かった。また、情報発信について、肯定的な評価が上がった。今後も引き続き、さまざまな機会を通して広報活動を図っていく。

2 信頼と誇りの持てる学校づくり

(1) 学校運営・学校経営に関して、教員の肯定的評価は高い。さまざまな教育活動に対し、迅速に対応を進める。

(2) 教職員の服務規律や相互の関係など、肯定的評価は高い。安全管理について、やや否定的な評価も見られる。特に学校外での肯定的評価が低くなる傾向があり、地域との連携を深める努力を一層すすめていく。

(3) 出納・経理、文書・情報管理については肯定的評価のみで、説明責任に堪えられる学校運営となっている。今後も着実に執行していく。

3 教育環境の整備

自己評価では肯定的評価が高い。しかし、地域・保護者の評価との開きがあることから、開きを埋める努力を今後も続けていく。